

## 女性活躍社会における女子大学生の企業選びに影響する要因の検討

内野真於

経済学部 経営学科 4年

伊藤ゼミ

日本において、女性が活躍することの重要性への認知が活発になった現代であるが、未だ働く女性のキャリア形成への支援や認知をはじめとした課題からは目を背けられない現状がある。こうした背景のもと、企業の中で働く女性に対し、企業や組織の取り組みや施策が及ぼす影響について、これまで様々な形をもって分析されてきた。その中で、女性が自らのキャリア形成を意識し、行動へと移す機会が増えた現在において、企業の中で働く女性のみならず、その前段階にあたるキャリア形成の第一歩である女子大学生の就職活動及び企業選択の場に対し、女性の活躍を推進する企業や組織が行う取り組みや施策は、女子大学生の意思決定にどのような影響を与えるのかを検討した研究は、未だ蓄積が浅いと考えた。そこで本研究では、学生に焦点を当てることで、彼女らの企業選択という意思決定の場に影響する要因についての分析・検討を行い、得られた結果から、女子大学生の企業選びに対する意思決定を支援するための企業のあり方について考察することを目的としている。

本研究の仮説は、「女性活躍に対する認識を持つ企業」「オープンなコミュニケーションを行う文化を持つ企業」「仕事と家庭の両立に関する多様性を受容する企業」「女性の健康推進制度を促進する企業」以上4点に関して、それぞれが「キャリア形成を描く女子大学生の企業選びに正の影響を与える」として設定した。

研究方法として、大学1年生から大学4年生までの男女合わせた、総勢232名を対象にアンケート調査を実施後、探索的因子分析及び重回帰分析を行った。

分析結果において、キャリア形成を描く女子大学生の企業選びに最も影響を与えていたのは「コミュニケーション」の重要性であることが明らかになった。そこから、働く環境における仕事と家庭の両立への理解が整っている企業よりも、社員間で行われる日々の率直な意見交換や悩みの共有、年齢や地位に関わりなく話し合いが行える職場環境があることの方が、彼女らのキャリアを見据えた企業選択には有効であることが推測される。また、本研究において最も興味深いものとして、女性特有の健康課題に対する問題と企業選択の間に明確な関わりがあったのは女子大学生ではなく、男子大学生であったことが明らかになった。この点に関して、男女関わりなく企業選びとの関係性に焦点を当てより詳細な検討を行っていく必要があるだろう。